

## 「仲間とともに」

山の辺小学校 6年 松前 継虎

ぼくは、幼稚園のころお母さんにすすめられてラグビーを始めました。でも、最初は泣きながらラグビーに通っていました。チームで体が一番大きいのに、タックルもしませんでした。突進もしませんでした。ラグビーがキライだったからです。ラグビーは楽しくもなく、やる気もありませんでした。だから、キャプテンに怒られました。

「やる気ないんやったらチームの迷わくやから辞めて。」

ぼくは、なんやこいつ、えらそうに、うっとうしいなと思っていました。

でもキャプテンの気持ちが4年生の時にわかりました。ラグビーがすごく好きになってきたその頃、大阪の強ごうチームが交流に来て、ぼくのチームと試合をしました。ぼくは、突進をして敵をたおしながらあと1歩でトライ!というところまで行ったのですが、仲間がフォローに来てくれませんでした。それがすごく悔しかったです。そして、ぼくもそんな思いをキャプテンにさせていたんだなと気づきました。

6年生になると、ぼくはトライをいっぱいするようになって楽しくなってきました。フォローに来てくれなかった仲間は、とても強くなっていました。それから数々の試合で連勝するようになり、段々とチームが強くなっていきました。チームが強くなっていくのがとても楽しかったです。それから全然負けることなく、このままだと全国大会で優勝できるのではないかと思うぐらい勝ち続けました。しかし、近き大会の決勝で、全国トップレベルのチーム「大阪中央」に5対1で負けてしまいました。負けた後、ぼくのチームキャプテンのインタビューを聞いて、とてもくやしかったし、悲しかったです。この日のために一番練習をしてきたキャプテンが泣きながらインタビューに答えていました。ぼくはもうキャプテンにこんな思いをさせたくありません。だからチームでもっときつい練習をしています。

ぼくは7年間ラグビーをやってきて、今が一番楽しいです。その理由は、仲間ができたからです。いいプレイをしたら「ナイス!」、ミスをしたら「ドンマイ、ドンマイ、次の準備しよ!」と声をかけあう仲間ができたからです。だからこそ、このチームで全国大会優勝をしたいです。そして、ぼくたちのために自分の仕事を休んで来てくれたコーチ、ぼくたちのためにいつも試合の準備をしてくれるお母さんたちを喜ばせてあげたいです。でも、そんなに全国大会はあまくないとぼくは5年生の時に感じたので、これからもたくさん仲間と練習をして勝ちたいです。

初めてぼくが「やってよかったー」と思ったのはラグビーです。あんなに泣いてキライだったのに、仲間ができてぼくは夢中になれました。仲間のおかげです。みなさんには何かを目指して力を合わせようと思う仲間はいますか。ぼくは、みなさんにも共にかんばれる仲間を作ってほしいと思います。